

News

No.134
2015/05/01



世界を舞台に

■サレジオ高専News

管区長・理事長から皆様へ
モンゴル工業技術大学モンゴル高専との教育の推進に関する協定
2014 IUS - サレジオ国際大学協会 in 子リ
モンゴル高専におけるアクティブラーニングとしての「ものづくり理科室」
全国高等専門学校第25回プログラミングコンテスト「特別賞」受賞
全国高専デザインコンペティション2014「最優秀賞（文部科学大臣賞）」受賞
10年の経年変化
町田サレジオ幼稚園開園

■育英学院同窓会報

卒業生の集い・SHCD2014 開催
サレジオ同窓会日本連合結成準備会合
サレジオ同窓会日本連合設立大会へ向けて規約・組織・準備進む
育英グラフィックの会（秋の勉強会と懇親会）開催
高専12期電気卒飯野昭氏のご活躍
本科48期生、専攻科13期生集立つ
今年も育英ファミリーの集い（第9回）開かれる
活発になる同期会、クラス会報告2014-5
速報 町田サレジオ幼稚園落成式に出席
恩師訃報

■父母会だより

第48期卒業生保護者の声
父母会イベント等

SALESIO

サレジオ高専

サレジオ工業高等専門学校

194-0215 東京都町田市小山ヶ丘4-6-8

Tel. 042-775-3020 Fax. 042-775-3021

Loving Kindness
Human Technology
Living Truth

発行人…校長:小島 知博
編集長…教員:山館 順
Design…広報:星野 正登

御挨拶

17年前アルゼンチンから帰国して5年間育英高専で働かせて頂きました。子供の時に家族と一緒に移民し、33年間南米で過ごしましたので、浦島太郎のような気持ちで、もう一度日本語の勉強と習慣を学びました。やっと2つの世界が一致したように感じます。そして育英高専は杉並から2005年に町田市に移転し、色々な困難を乗り越え発展してきました。その一つの芽生えとして、今年度からサレジオ幼稚園が開園されました。地域の人々のためにもっと教育の奉仕ができるよう教職員、学生、保護者、卒業生、恩人の方の希望が一つになれるように祈ります。

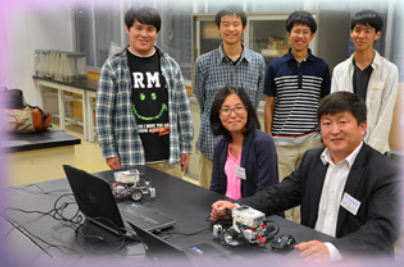
日本管区本部（管区長館）
管区長 山野内 倫昭

— 未来の世界を担う皆様へ —

育英学院は高専1、中・小学校それぞれ1、幼稚園3から成り立っているわけですが、それぞれの事業体が、自分の存立や発展を第一に考えるのではなく、地域社会にどのような貢献ができるのかを第一の関心事として日々奮闘する事を目指しているのです。つまり自己目的ではなく、他者の福利を追求する心構えこそが、事業体の存在理由でなければなりません。そうして自分も安定し、発展するのは勿論望ましいことですが、それはあくまでも目標ではなく、結果なのです。言うのは簡単ですが、ここが難しい所です。今後とも多くの皆様の叡知、経験、協力をどうかよろしくお願い致します。

学校法人 育英学院
理事長 並木 豊勝





- サレジオ高専の国際交流 -

本校のアドミッションポリシーの一つに「国際性」があります。将来、海外で活躍できるエンジニア、デザイナーを5年間で育成することは難しいので、海外で活躍してみたいと思ってくれる学生を育てること、そのために海外に関するさまざまな知識を得て、渡航の体験をすることができるように国際交流センターが教育プログラムを用意していますので「国際性」を育むことが可能です。

国際性というときに語学習得は重要ですが、それ以前に海外に関心を持ち、自らその情報を得て知識を増やし、実際にチャンスがあれば積極的に海外に行き、自分で見識を広げる行動力も国際性の重要な要素だと考えています。

オーストラリアのサレジオの高等学校、フィリピンのドン・ボスコ工科大学との学校間の交流、東ティモールではボランティア活動、イタリアの文化体験ツアーがあり、またイタリア語、韓国語、中国語の語学研修があります。

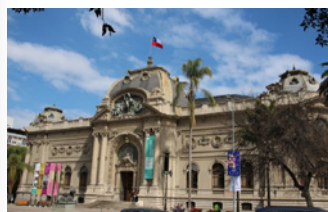
昨年タイの泰日工業大学との交流が始まり、またモンゴル高専の学生が本校を訪れたことを機に、モンゴル高専との交流の可能性が出ています。ページ上部の写真は2014年6月23日、モンゴル国より来校されたモンゴル工業技術大学モンゴル高専のバトビルグト校長とウルジーナラン通訳が、サレジオ高専内で「教育の推進に関する協定」を締結した際の1コマです。

学生の積極的な行動があれば海外の体験学習は実現します。

サレジオ工業高等専門学校
学校長 小島 知博



2014 IUS - サレジオ国際大学協会 in チリ 参加報告



■ IUSとは

IUS (Istituzione Universitaria Salesiana, サレジオ大学機構) は、世界中にあるサレジオ会系高等教育機関のネットワークを結ぶための機構です。世界中のサレジオ会管区長と高等教育機関の長がローマに会した1997年12月8日、Rector Major Fr. Juan VecchiがIUSを設立する必要性を唱え、創立に向けての準備が開始されました。1998年には規約が定められ、計画目標を達成すべく14名の委員が選ばれました。現在、IUSは、ドン・ボスコの教育理念に賛同するさまざまな組織（UNESCO, AECID, etc.）と交流を持ち、世界中で講演会や学会を開催しています。IUSの活動により、ドン・ボスコがかつて考えていた予防教育が、現代の高等教育機関に継承されています。

■ 今回の活動の概要

2014年9月23日～25日、IUSと他の教育関係組織の協力のもと、チリのサンチャゴにてラテンアメリカ教育学会が開催されました。学会のテーマは「Hacia una Transformación Educativa con Sentido」（国や地域の必要性に応えるための教育変化）でした。厳正な審査により発表が認められた論文の中に、私自身の論文が入っていたことは、驚きでもあり、光栄でもありました。学会には小島校長先生も参加されましたが、アジアからの発表者は本校のみでした。ヨーロッパ、北米、南米などについて多数発表があり、アジアに関する発表は私だけであったため、聴衆はあまり興味を持たないのではと心配していました。しかし、発表後非常にたくさんの質問をいただき、アジアに対する世界の熱い眼差しを感じることができました。学会後、校長先生と私は、会場となっていたサレジオ大（Universidad Católica Silva Henríquez）の内部を特別に見せて頂きました。学生数二十万人のサレジオ大学について詳しく知ることができ、IUSのネットワークの規模の大きさ、繋がり強さを改めて感じました。

The Role of Technical Education in the process of State Building: The case of post-conflict Timor-Leste (East Timor)

Luis A. MARQUES

1. Salesian Polytechnic, 4-6-8 Oyamaoka, Machida, Tokyo, Japan, marques@salesio-sp.ac.jp

Abstract

In many countries, but specially in developing countries there has been a structural shift towards self-employment and the informal sector, for the most part as a somewhat desperate response to growing large-scale of unemployment and underemployment. It's believed to be caused by a function of three inter-related problems: the dearth of employable skills, the lack of equitable access to either decent work or useful skills training opportunities, and the severe overall shortage of jobs. It wouldn't be different in Timor-Leste, maybe elevated to a more increased scale. Technical and Vocational Education and Training (TVET) plays an instrumental role in the technological advancement and economic sustainability of many nations. This study offers an analysis regarding the reality of Technical and Higher Education in Timor-Leste. Education in Timor-Leste has never been high on its list of priorities and specially Technical and Higher Education is even less regarded. The first University was established under Indonesia rule in 1986, however the whole system was brought to its knees during the conflicts in 1999. To respond to this reality UNESCO has created a Timor-Leste UNESCO Country Programming Document (TL-UCPD). Following this UNESCO Program, the Timor-Leste Government developed a Strategy Development Plan on Education. Higher education in Timor-Leste is divided into Higher Technical Education and University Education. Government data about Higher and Technical Education shows a work in progress. However, this falls short from meeting the demand required for Educational Institutions, teachers, students and quality of education. All of these aspects of education are necessary for the development of Timor-Leste as a Nation. This paper concludes that a comprehensive and dynamic approach to strengthen TVET delivery in Timor-Leste is absolutely essential in order to achieve stability and growth in the economic development of the nation.



今回、IUSと様々な教育関係組織のご協力を頂き、「国や地域の必要性に応えるための教育変化」について様々な国の方々との意見の交換ができました。

真の意味での国際化には、多様な言語を使いこなすだけでなくそれぞれの異なる背景や文化を理解しあう事がとても重要だと感じました。

この活動を通して得た経験を活かして今後もサレジオ高専で学ぶ学生たちの国際性を育てていきたいと思っております。

一般教育 文系 准教授
ルイス・アントニオ・マルケス

モンゴル工業技術大学内に設立されたモンゴル高専において
アクティブラーニングとしての「ものづくり理科教室」を実施し、その様子がMONGOL-TVでも紹介されました



■ 活動概要

今回の「ものづくり理科教室」ではLegoのマインドストームEV3を使って、

- ① ロボット組み立て・プログラム作成
- ② 周回コース、障害物回避コースでの競技大会
- ③ 2国間協働によるロボット制作に関するプレゼンテーション

の三部構成として実施しました。

当日は、モンゴル高専学生全員と教職員の歓迎を受けて「ものづくり理科教室」の開始となりました。

本企画には、モンゴル国にとっても、はじめての企画であったため、モンゴル工業技術大学からガンバット学長はじめ、国立モンゴル科学技術大学に新設された高専コースからガンバエル校長も視察に訪れました。



←MONGOL-TVで放映された内容はサレジオ高専公式サイト↓
http://www.salesio-sp.ac.jp/main/topics/2014/1028_mongolkosen_rpt/index.html
で視聴可能です(2015年1月現在)



今回の「ものづくり理科教室」は、参加した日本とモンゴルの学生にとって、将来エンジニアとして求められる国際的知見や、異文化適応能力の重要性を認識する目的にて実施しています。

また、本企画は、2国間の学生がエンジニアになることを見据えて、ものづくりのノウハウを異文化の場面において母国語以外の言葉で伝える実践的な教育でもあります。

サレジオ高専では、今後ともモンゴル高専と連携し、グローバル人材育成のため本企画を継続する予定です。

一般教育 理系 准教授
国際交流センター
伊藤 光雅 博士(理学)

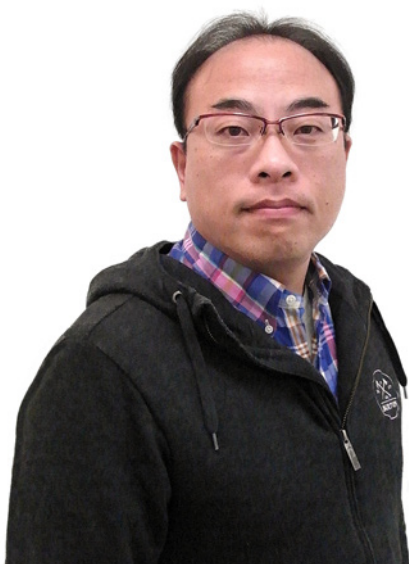
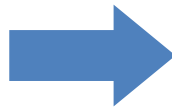


「全国高等専門学校第25回プログラミングコンテスト」競技部門にて
本校の高専プロコンプロジェクトチームのメンバーが「特別賞」を受賞しました



■ 全国高専第25回プログラミングコンテスト 競技部門概要

競技内容は、1枚の原画像から同サイズに切り分けられた断片画像をバラバラに並べた問題画像を、元の画像に並べ替えるパズルゲームです。断片画像の元の位置は問題画像から推測します。断片画像の並び替えは、第15回（新居浜）大会でも行いましたが、今回は並び替え方にも工夫が必要です。並び替えは、隣り合う断片画像同士の入れ替えだけで行わなければなりません。回答時間も重要な要素です。より操作の少ない回答を、より早く回答したチームが勝利となります。時間をかけて操作が少ない回答を求めるのかそれとも操作は多めな回答でも素早く回答するのか、勝負の駆け引きになります。



ここ数年、競技部門では準決勝へはコマを進めるものの決勝戦へはなかなか進めませんでした。本年度は、4年生と3年生が中心となりチームを組み、「学内予選」や「練習試合」を通じ、一歩一歩着実に競技用プログラムの性能を高めてきました。残念ながら3位入賞とはなりませんでしたが、競技用プログラムの性能は入賞者に次ぐものでした。

しかし、競技用プログラムの性能は3位入賞チームのものにまだ大きな差をつけられています。今回の経験を糧に次年度も優勝を争えるように頑張っていきたいと考えています。これからも、高専プロコンプロジェクトチームへのご支援・ご協力をお願いします

情報工学科 准教授 内田 健

左記「全国高等専門学校第25回プログラミングコンテスト」での活動を通して
気づきと成長を得たプロコンメンバー達（リーダーは古川さん）



高専プロコンプロジェクトチーム

情報工学科5年	鈴木 嘉晃
情報工学科4年	加藤 慎二
情報工学科4年	鈴木 裕也
情報工学科4年	古川 泰地
情報工学科3年	田中 叡
情報工学科3年	谷地 卓
情報工学科2年	彩希 健斗
情報工学科2年	坂田 大地
電気工学科1年	岩井 隆人
情報工学科1年	北村 開
情報工学科1年	丸尾 一真

- 全国高専第25回プログラミングコンテスト -

特別賞受賞

- リーダーの代表受賞コメント -

「私は2年生のころからプロコンに参加していて、今年で3回目の参加でした。そのうち2回競技部門に参加し、中心で開発を行っていました。今年度は開発と同時にリーダーとなり、チームのマネジメントをしていく立場となりました。その中で、内田先生や鈴木先輩のサポートを受け、この度栄えある賞を頂くことが出来た事を心より感謝いたします。

今年度は競技部門に参加し、チームで1つの課題に取り組み、その段階で様々な経験をする事ができたと思います。プログラムを開発するうえで必要な数学的知識、グラフネットワーク理論の知識など、研究室単位で研究されるような分野についても知識を得ることができましたし、また複数人開発におけるタスク管理の手法についても実践的に学ぶことができたと思います。当然プログラミング、技術的な面でも非常に成長できたと感じていますし、同じチームのメンバーも同様に成長したと自分の目からみてもわかります。

私はプロコンに毎年「勝つ」ために出場していました。今回特別な賞をいただいてその目的は一応達成し、満足しています。ですが自分含めメンバー全員がこの大会を通して様々な経験をし、多くの能力を鍛えることができたことについても非常に満足しています。来年度からはチームをサポートしていく上級学年として、引き続きこの活動に参加していきたいと考えています。」



サレジオ高専 情報工学科

古川 泰地

FURUKAWA Taichi

本年度はチームメンバーが3、4年生となり、更に、メンバーの層も前年度に比べて厚くなり活発に活動をしていました。

4年生はインターンシップ等があり、一番活動ができる夏休みにメンバーが中々集まることができない状況で、グループウェアサービスやバージョン管理システム等をうまく活用して活動をしてきました。

結果としては、3位入賞とはなりませんでしたが、今回の経験で学んだことを次年度に活かし、また、後輩へ引き継いでいきたいと考えています。

これからもプロジェクトチームへのご支援・ご協力をお願いいたします。

情報工学科 講師 清水 哲也



熊本県八代市で開催された「全国高専デザインコンペティション2014」における
環境デザイン部門にて最優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞しました



作品名「カワアカシ」概要

今回のデザコンのテーマは、「水と生きる、水が生きる」。

私たちが水と共生、共存する為には、どのような仕掛けがあったら良いか、どのような環境であるべきか等、水と命の境界線をデザインするという意味はなんなのかの問いかけに対し、学生達は「暗渠を開く」→「川を明かす」＝「カワアカシ」というアプローチで応え、交通上の課題解決や環境上の改善など多様な観点を盛り込んだ見事な提案で最優秀賞を獲得しました。



これで本校は4年連続の最優秀賞（環境デザイン部門では2年連続）となりました。環境デザイン部門の予選には全国から92作品の応募があり、選ばれた11作品が本選でアイデア等を競いました。

学生たちは育英祭期間も含め、遅くまで準備をし、本選に挑みました。女性だけのチームでしたが、男性に負けにくいぐらい堂々と力強くプレゼンテーションをおこないました。

また、ポスターセッションや公開審査では積極的にコミュニケーションをとっていたのが印象的でした。来年も最優秀賞を！と意気込んでおります。今回参加した学生に暖かい声をかけていただけたら幸いです。

最後になりましたが、デザコン出場に際し多くの皆様にお力添えをいただき深く感謝致します。ありがとうございました。



デザイン学科 講師 谷上 欣也

左記「全国高専デザインコンペティション2014」での活動を通して 気づきと成長を得たデザコンメンバー達（リーダーは佐藤さん）

「私はデザコンに1年生のときから現在まで3年間続けています。初めは何を考えていいのかわからず、模型の製作くらいしか手伝う事ができませんでした。ですが、先輩方や先生方と作品の製作を進めていくうちに、自然とデザインのノウハウが身に付いていきました。数多くの方の支えもあって、今回環境部門で念願の最優秀賞を受賞することができ、周りの環境に恵まれたことのありがたさと自己の成長を改めて感じることができました。デザコンに取り組んで行くにあたり、自分が特に成長を感じた点が3つあります。

1つめは、チームで仕事をこなす能力です。人の意見を聞くだけではなく自分の意見も言い、みんなが納得できるより良いものにしていくことはとても大変で時間のかかることです。ですがそれは、自分勝手なデザインにならないようにするために、とても大切な過程なんだということ学びました。

2つめは、デザインの考え方です。社会問題を解決することが多く扱われるデザコンにおいて、ソーシャルデザインのような、モノではなくコトのデザインをすることが多く、普通の授業ではなかなか出来ない経験をする事ができました。一番感じたことは、デザインとアートはとても深い関わりがあるということです。私はデザコンの課題について考えていると、だんだん頭が固くなってしまい、理屈ばかり並べてしまうクセがあるのですが、そこで一旦気持ちを切り替えて、アートのように感覚的に思ったことや遊び心をプラスすることで、論理的で説得力のある中に面白さが光る作品に仕上がっていくのではないのかなと感じました。

3つめは、Illustrator・Photoshop・PowerPointなどのソフトの技術が身につきました。プレゼンボードはどのようにまとめたら見やすく綺麗な物に仕上がるのか、PowerPointでプレゼン資料を作成するとき、どの情報が重要なのかを見極める情報を選択する能力も高まりました。

デザコンが私に与えた影響はとても大きく、他にも自分が成長したなと思えることは沢山あります。これからデザコンで活動していく後輩達が大きく成長していけるよう、この良い流れを未来へ繋いでいきたいです。」



佐藤 愛

SATOU Mana

「私がこの一年間、デザコンを通して一番感じたことは『論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力』の重要性です。私は3年になって初めてデザコンに参加したのですが、今までグループで何か一つのものを作るということをやったことがなかったため最初は自分の考えていることを他のメンバーにそのまま伝えるのにも苦労しました。

個人で作品を作る時とは違い、自分がいいと思ったアイデアでも他人がいいと感じてくれなければそれは形になりません。デザコンを進めていくうちにこれは自分の作品の意図を伝えるプレゼンテーションと同じなんだということがわかりました。後半からはしっかりと自分の意見をまとめてから他のメンバーに伝えるようになり、最終的な案に自分の案が反映された時はとても嬉しかったです。

私たちの班は色々な案がでてくるものの中アイデアがまとまらず、苦労しましたが、その中で『与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力』やチームで仕事をこなす能力など様々なことが身につきました。今回私たちの班はこのような賞を頂くことができましたが、自分たちだけの頑張りだけではなく、先輩方、先輩、色々な方の支えがあってこそ最優秀賞だと思います。

私はデザコンを通して自分にはなかった力、能力を身につけることができました。今後は今回得たことを活かし、次へ次へ進んでいきたいと思っています。」



深井 美月

FUKAI Mizuki

「私がデザコンに参加しようと思ったのは、今までの2年間で友人が動かしむ姿を見て私も、デザコンで研鑽して、自分自身を高めたいと思ったからでした。今回初めてデザコンに参加したので、不安を感じることも多々ありました。途中参加できない時期があったりと、少々不甲斐なきを感してしまいましたが、担当教員の皆様や、チームメイトにも恵まれ、賞を頂くことができて嬉しいです。

デザコンでは、テーマ内容に沿ったことを提案し、コンセプト立案、制作、プレゼン等と進んで行きますが、様々な場面で自身の能力が開花したと実感しております。コンセプトを立案していくにあたり、地球的視点から多面的に物事を考える能力が鍛えられたと共に素養を高めることができたおともいます。

私たちのテーマは『音楽を再び開ける』というもので、自然との共生を図るために、交通問題や、環境問題、地域コミュニティなどの様々な問題を改善することも視野に入れ種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力が鍛えられたと思います。制作では1つの作品を作るために協力し、与えられた課題を計画的に進めまとめることや、チームで仕事をこなす力も身につけることができたと思います。また、プレゼンテーションでは、論理的記述力、口頭発表力、コミュニケーション能力等、様々な力を伸ばすことができました。プレゼンの最中では審査員の方から、技術的アドバイスを受けたことで、私たちに足りなかった部分を補うことができました。

このデザインコンペティションでは、自分自身足りないものを補い、自然に対する考え方を考えることができました。来年も自分を成長させる意味でも、参加してより一層切磋琢磨していきたいと思っています。」



浜田 沙耶

HAMADA Sora

「私がデザコンに参加しようと思ったのは、自分自身のスキルアップのためです。授業外の課外活動に参加していくことで、先輩方や先生方との交流が増えていきます。それにより他者の様々な意見や考えを聞くことができ、自身の視野や考えを広げることができると先輩方の活動から感じていました。

実際に活動に参加して、様々なアドバイスをいただき自身のスキルアップにつながりました。メンバー5人で“カワカサ”を考えていくなかで、様々な能力、技術は向上していったと思います。『チームで仕事をこなす能力』では、互いが持っている知識を共有し、カバーしていくことでこの“カワカサ”は出来上がったと思います。そして、私は先輩方から多くの技術を学ぶことができました。

また、“カワカサ”の大きなテーマの1つでもある“音楽”という言葉、意味は私には知りませんでした。様々な調査、下調べをしていく中で初めて知ること多かったです。『地球的視点から多面的に物事を考える能力』・『技術が、社会や自然に及ぼす影響や効果及び技術者が社会に対して負っている責任に関係する理解』など考える機会になりました。デザコンに参加したことでも様々なことを考える機会になりました。本選に出ることにより他高専の発表はとても勉強になりました。

今回、最優秀賞をいただけたのはアドバイスをくださった先輩方、先生方がいたからこそだと思います。来年もこの経験を活かし、最優秀賞を目指したいと思います。また、先輩方のように後輩を引っ張れるようになりたいです。」



大矢 美幸

OHYA Miyuki

「デザコンを通して得られた能力はいくつもあります。例えば提案内容を考えるときには『地球的視点から多面的に物事を考える能力』や、『与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力』『チームで仕事をこなすための能力』『種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力』などの能力です。

その中で私が一番身についたと思うものは『論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力』だと思います。なぜなら、私たちの提案を他者に伝えるときに一番必要な能力だからです。提案内容は、音楽になった川をものか姿に戻すというプロジェクトで、ただ川にしてある蓋を外すのではなく元の姿に戻すための3つのステップを考えました。本選では、それを審査員の人や一般の人にわかりやすく確実に伝える必要がありました。ポスターセッションは先輩に混ざって私も説明をしました。最初はうまく説明できなかったり、質問にうまく答えられなかったりと大変でした。先輩の姿から相手にわかりやすく伝えるにはどのような順番で話せばいいのかわかりやすい言葉を選ぶとスムーズに話が進められるということ学び、私も後半はうまく説明することができました。これはこれから先でも役立つ能力だと思います。このようにデザコンは多くのことを学び自分の能力を鍛えることができる場だと思います。

来年は、後輩が入ってきて私が先輩という立場になります。後輩にもデザコンを通して成長してもらいたいし、自分も負けないように頑張ろうと思いました。」



掛野 さくら

KAKENO Sakura

10年（2005-2015）の経年変化 ※ 間違い探しではありません ※

今から10年前、6人の先生がサレジオ高専に着任されました。

※上部左写真左より

- 佐久間先生
- 斉藤先生
- 高野先生
- 山下先生
- 椎名先生
- マルケス先生

その当時と同じ場所、同じポーズで撮影して頂いたものが、右の写真なのですが、何故か皆、歳をとった印象がありません。（…私は確実に10年分老いて、余分な肉がしっかりとついていますが…）

若さの秘訣は、日々頭を使う事と、エネルギー溢れる学生の皆様と共に過ごす事なのかもしれませんね。

編集 星野



早いもので、サレジオ高専が町田の地に移転して10年が経ちました。私たちは2005年、育英高専から現校名に改称し、新たなスタートを切ったのと同時に着任いたしました。言わば、サレジオ高専の歩みとともに教員生活を送ってきたようなものです。

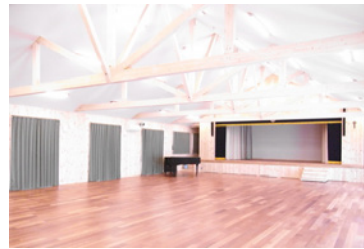
多くの先生が20代中盤でこの学校にやって来ましたが、気づいてみれば40代が目前に迫っています。でも、実感がないので気持ちは20代のままです！（笑）この10年で学校の周りも賑やかになり、当時は「サレジオ」という名前をよく間違えられましたが、今では地域的にも覚えてもらえるようになりました。

学生の皆さんにとってみれば、10年前から今日までを振りかえると、心も体も大きく成長し、また周囲の環境も変化することからとても長い間に感じていることでしょう。しかし、社会人として歩み始めてからの10年は、思いのほか短く感じるものです。

安定ばかりが求められる傾向の強い昨今ですが、身に付けた技術を基にプロフェッショナルとして活躍すべく、常に自らを成長させる姿勢を持ち続ける10年を過ごして欲しいと思います。卒業して就職することが皆さんのゴールにならないよう、大きな夢と高い目標は絶対に持ち続けましょう！

一般教育 文系 講師
高野 修





- 町田サレジオ幼稚園園長あいさつ -

今年度4月からサレジオ高専に隣接して町田サレジオ幼稚園が開園しました。本学院法人の理事長で、昨年10月に他界されたアルド・チブリア二神父の強い要望があり、サレジオ高専の校長と幼稚園の園長を兼務することになりました。開園したばかりの幼稚園の教育活動を軌道に乗せること、さらに幼稚園とサレジオ高専の関わりを作ること、幼稚園教育を通してさらに地域の方々とのつながりを深めることができたいと願っています。

去る4月10日に町田サレジオ幼稚園の入園式と開園式が行われました。第一回目の入園式ですので、多数の来賓の方々を迎えての式となりました。多摩境でサレジオの幼稚園が本当に始まることを実感しました。サレジオ修道会は日本ではすでに5つの幼稚園教育を行っています。関東では足立サレジオ幼稚園、目黒サレジオ幼稚園、川崎市にサレジオ学院幼稚園があります。いずれの幼稚園も開園してすでに40年以上の歴史を持っていますので、彼らからいろいろとアドバイスやサポートを受けながら町田サレジオ幼稚園は多摩境で地域の方々とともに教育活動を行うこととなります。

また開園式では石坂町市長はじめ地元の議員の方々、また商工会議所の方々や小山、小山ヶ丘地域でさまざまに活躍されているの方々、近隣の小学校の校長先生方など多数の参加をいただきました。平日の多忙な日にも関わらず足を運んでくださり、町田サレジオ幼稚園の開園を祝っていただいたことに深く感謝いたします。この式のなかで、サレジオの教育に関心と期待を寄せていただいていることを感じることができました。これから多くの方々の期待に応えるように日々の教育活動に取り組んでいきたいと思っております。

町田サレジオ幼稚園
園長 小島 知博



育英学院同窓会報

発行人:育英学院同窓会 会長 林 紹澄 / 事務局:町田市小山ヶ丘4-6-8 サレジオ高専内



— お知らせ —

10月31日には卒業生の集いSHCD2015が開催されます

卒業生の集い SHCD2014 開催 2014. 11. 1

去る11月1日(土)育英祭初日、恒例の新卒生他(高専2,3,4,5期、41、42期、新卒47期)を招待しての標題の会合は盛会の内に終了しました。幹事を始め関係者のご協力に感謝します。当日の育英祭には雨模様にもかかわらず多数の卒業生が来校され、総数3300余名、卒業生は370名近くに達しました。SHCD2014出席は総勢139名でその内訳は下表の通りです。当日10時から校舎棟2Fで同窓会受付設置、午後1時から第2アリーナで託児サービス開始、午後3時からSHCD2014受付開始、午後4時から学生食堂にて開会された。来賓代表としてサレジオ高専小島校長挨拶、林同窓会長挨拶、卒業生代表(4期高田、41期戸高)挨拶、そして元職依田勝先生(高専電気)の乾杯で開宴、下表の通り、高専初期の1-10期生はその姿を40年以前に遡り、再会を祝って歓談、40期以降のサレジオ高専卒生は近況を互いに報告しあった。スクリーンには元職加藤多津生先生のドンボスコツアーの画像を投影し、恒例のBINGOに突入、賞品は従来のUSBに替わってMicroSDが64GBから4GBまで合計63個用意され、5並べ、ダブル5並べとすすみ、フル(全部)で32GB、64GBの獲得者がでた。工高も含めて多くの卒業生の参加で盛会となった。

次回のSHCD2015はドンボスコ生誕200年、育英創立80周年、サレジオ高専10周年の記念総会を兼ねて開催します。招待は高専6,7,8,9,10期生、43期生、新卒48期生、同窓会役員、当年会費納入会員の予定ですが全ての卒業生の来校を歓迎します。

参加者一覧

工高	全部	6名
高専	1期	4名
	2期	5名
	3期	4名
	4期	7名
	5期	10名
	6-10期	5名
	22-26期	3名
	30-33期	4名
	40-45期	10名
	47期 AD	23名
	47期 CS	18名
	47期 EE	13名
	47期 ME	14名
現元職		13名
合計		139名



校舎棟2F同窓会コーナーで
(角田先生、柳田顧問、河村副会長)



47期デザイン女子組
(島津先生他OBとともに)



新卒48期生代表挨拶



林会長を囲む印刷5期OBたち



中締め挨拶
(高橋同窓会事務局長)



SHCDの裏方
(同窓会執行役員)

サレジオ同窓会日本連合結成準備会合

2014. 10. 11

昨年から日本国内のサレジオ系学校同窓会の連合(日本連合)結成の話題が進行中です。

去る10月11日大阪星光学院で会合があり、育英学院としては校長代理として高橋事務局長、同窓会から林会長、近松副会長、由良副会長が出席、結成へ向けて議論が進んだようです。日本国内では、町田育英学院(サレジオ高専)、横浜サレジオ学院、大阪星光学院、宮崎日向学院の4校同窓会です。

前回8月9日と同じ台風の影響を気にしながら、10月11日(土)サレジオ同窓会日本連合会合が大阪星光学院で開催されました。星光学院同窓会スタッフおよび学校職員の皆さまのご協力により、校内見学会・連合会議・懇親会と心づくしのおもてなしを受けました。会議では、サレジオ同窓会日本連合設立に向けての規約および組織づくりで活発な意見討論が交わされました。

懇親会では、各校と情報交換し、充実した時間を過ごすことができました。大阪星光学院同窓会では医師同窓会・弁護士同窓会、各地方支部等の分科会の活動、そして、同窓会と学校との親密な連携等に刺激を受け、今後の私たち育英学院同窓会のあり方を考えさせられました。遠路での開催でしたが、得るものが多くとても有意義な会合でした。次回の開催は2015年2月21日(土)サレジオ学院にて、「規約の承認」と「負担金の按分」を正式に諮り、役員選出まで進められる予定です。



サレジオ学校の同窓会は世界連合>アジア・オーストラリア連合>各国国内連合>サレジオ学校というように組織されていて全世界の卒業生総数は数百万に及ぶようです。現ローマ法王もアルゼンチンのサレジオ学校出身と聞き及んでいます。2015年はドンボスコ生誕200周年にもあたり以下のURLサイトに関連情報がアップされています。

ドンボスコ生誕200周年記念サイト

URL : <http://salesians.jp/db200>

去る2015年2月21日、横浜のサレジオ学院で会合が開かれ、サレジオ同窓会日本連合へ向けて最終合意の議事を進めた。その報告は以下の通りである。

※ 右上へ続く

サレジオ同窓会日本連合設立大会へ向けて

規約・組織・準備進む

2015. 2. 21

去る2月21日横浜サレジオ学院にて会合が開催された。大阪会議に加えて、さらに規約、組織が固まり、設立会合開催に向けて準備を進めた。

この会議には育英学院同窓会から林会長他、河村、奥山、近松、由良、川島副会長らが出席し、総力体制で対応した。

前回に続き大阪、宮崎からの役員も出席し、サレジオ会新管区長の山野内神父、サレジオ学院の鳥越校長の力強い日本連合への期待がこもった挨拶で始まった。検討内容の概要は以下の通りである。詳細は育英学院同窓会のホームページ上に掲載する予定である。

1. サレジオ同窓会日本連合を2015年5月を目処に正式発足の見込み
2. 同連合規約案を検討し、最終案を承認して制定の運びとなった
3. 同連合の運営経費を4学校単位で当面分担する。本同窓会負担は年20万円
4. 役員会は規約により会長、副会長、理事、監事を置き本同窓会からは副会長の一人として林会長が、理事として近松、由良副会長の二人が、監事に奥山副会長が選出され、会長には大阪星光学院同窓会長の吉田さんが就任した。
5. 顧問にはサレジオ会員から管区長及び各校校長が就任、事務局も選任された。
6. 2015年10月3～6日トリノで開催されるサレジオ同窓会世界連合大会に所属各校同窓会から最低1名以上参加する方向でとりまとめた。

この後、ドン・ボスコ生誕200周年事業への取り組み、今後の日本連合活動の方向性を検討した。次回会合を正式発足会議として育英学院同窓会の担当となった。5月9日に東京町田サレジオ高専で開催の見込みである。

横浜サレジオ学院にて(2015. 2. 21)



育英グラフィックの会(秋の勉強会と懇親会)開催

2014. 10. 18

去る2014.10.18、2013年秋に発足した「育英グラフィックの会」が主催する勉強会がハイデルベルグ・ジャパン様の全面的なご協力の上で実現する事ができました。今業界で話題になっているLED-UV印刷について最新の機械設備と印刷技術を体験していただき、印刷経費の削減や時間削減にお役に立てただけであればと思い開催の運びとなったものです。

- ・日 時: 2014年10月18日(土)
午後1時30分～午後4時30分
- ・テーマ: 1)最新LED-UV印刷機のデモ実演
2)ユーザー報告(ジャパン・スリーブ様)
3)LED-UVインキの特性(東洋インキ様)
4)GMG ColorProof等(GMG様、新星コーポレーション様)
- ・会 場: ハイデルベルグ・ジャパン本社

会合後、懇親会が開かれ本場ドイツビールと料理でOB&OGの輪を拓けたとのことです。この会に関心のある方は以下までお問い合わせください。旧印刷系学科のみならず、デザイン、情報系の卒業生や現役生もお誘いしています。

sugihara@mx6.mesh.ne.jp(杉原)



孤独死防止のための「見守りドア(新名称:みまもって)」を開発 (高専12期電気卒飯野昭氏)

2014. 10. 18

去る2014年10月18日東京新聞夕刊社会面トップに標題の記事が掲載された。その制作者は本高専12期電気卒の飯野昭氏で、独居高齢者の孤独死を防止するための簡便な仕組みを提案、試作品を提供した。

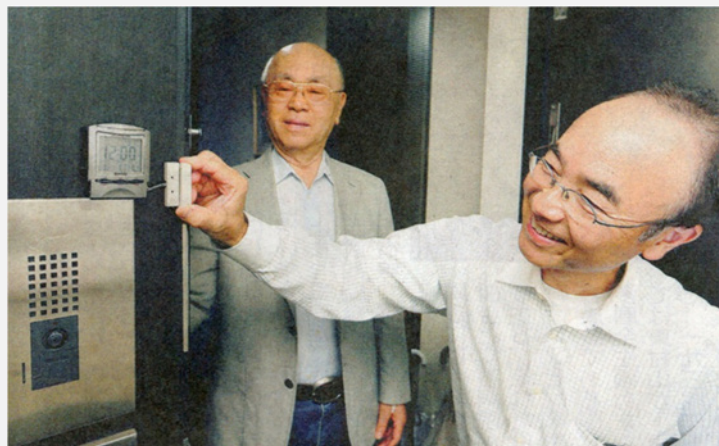
従来の同種の製品はセンサー付の高価なシステムが多く、このドアに設置する「みまもって」はドアが閉まってからの時間と日数を表示し、近所の方や集合住宅の管理員が長時間ドアが開いていない場合、室内のトラブルを発見出来るようになっている。見守り活動を行う人々が面談(ピンポン!)することなく安否確認ができる優れものである。

飯野氏からのメールによると、その後、「みまもって」に多くの問い合わせがあったそうである。フジテレビからの取材の申込みがあり、テレビ出演により、その効果で商品化する会社が現れ今年5月頃には商品化の見込みだそうである。(大崎居木橋町会役員:飯野さんからの情報提供)【記】11月1日(土)17:30~18:00 放送(4~5分)フジテレビ スーパーニュースWeekendで「孤独死を防げ!「見守りドア(現:みまもって)」とは?」が放映された。

Youtube動画サイト紹介↓

<http://www.youtube.com/watch?v=L88MiZR7qys>

※ 右上に続く



東京新聞夕刊紙上から

本科48期生、専攻科13期生巣立つ

2015. 3. 20

去る3月20日(金)午後1時から橋本駅北口「社のホール」にて専攻科13期生、本科48期生のそれぞれ修了証書授与式、卒業証書授与式が挙行了された。

専攻科生の修了証書、学位記授与、本科生の卒業証書授与、各種表彰、父母会長挨拶、祝電披露、記念品贈呈などどこおりになく挙行、最後に恒例の「旅立ちの日に」を卒業生全員が合唱して式を終えた。

引き続き所を変え、京王プラザホテル多摩(多摩センタ)において卒業生の父母(卒対委員会)主催の謝恩会が開催され、同窓会執行役員も出席して盛大に祝った。席上同窓会長の挨拶に続いて今期48期生の評議員(クラス幹事)8名が会長から紹介された。今後の同窓会とクラスをつなぐ重要な仕事を願った。

また今年の10月31日には、卒後最初の同窓会SHCD2015が開催されることも予告された。



御言葉の祭儀



証書授与



式会場全景



同窓会長挨拶(評議員紹介)

今年も育英ファミリーの集い(第9回)開かれる

2015. 3. 20

去る3月28日(土)好天に恵まれ、杉並のサイテック育英(旧育英高専正門位置の右隣)にて9回目の育英ファミリー会主催の育英ファミリーの集いが開かれた。

但馬会長の挨拶の後、古屋先生(元職・国語)の音頭で乾杯、開宴の運びとなった。恒例の料理や、焼きそばが用意され、持ち込みも含めて多種多様なお酒もふるまわれた。

平山吉晴先生、ヘンドリックス先生、中村皓一先生、石川日出夫先生など天国に旅立った恩師も見守ってくださる中、今回就任された山野内本会名誉会長(サレジオ管区長)、小島知博サレジオ高専校長、高橋孝事務長(同窓会事務局長)、林同窓会長も交えて多数の恩師も来会し、育英工高、高専の卒業生、その父母たちおよそ80余名の皆さんが再会のひとときを持った。

学校は移転しても育英発祥の地である杉並に集う思いは大事なことであろう。なおこの会の別名「さくらの会」の象徴であった桜がこのたび弱ってしまったことが判明したが対応は今後、検討する模様である。



活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ①

「駒田会報告(2014年10月)」

毎年恒例の駒田会を10月19日に 池袋養老乃瀧とドールコーヒーで開催しました。電子、電気のメンバーは楽しくつろいで酒を飲み語り合いました。66~67歳になるけれど、高専1期生はまだ若く元気です。

出席者

依田先生、稲葉、三木、道善、河村、小菅、山下

次回、皆様のご参加をお待ちしています。(10月20日山下記)

報告: 山下隆雄(高専1期電気卒)

Mail : yamachan925@hotmail.com

※ 右上に続く



活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ② 「高専9期電気有志忘年会(2014年12月)」

今年も恒例の忘年会を12月3日池袋の「土風炉」で開きました。以下の仲間が参集し、旧交を温めました。還暦も間近に控えて、皆、健康に注意して頑張ろうということになりました。

出席者

依田先生、小杉、須賀、平井と彼女、松永、櫻井、関、村松

報告: 村松正仁(高専9期電気卒)

Mail : tonbuta101@sunny.ocn.ne.jp



活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ③ 「育英祭に行ってきました(2014年11月)」

先日、扇風機を仕舞って暖房機を出しました。エアコンも掃除して準備よし!。風邪引き??調子悪~いこの時ですが、本日11月2日育英祭に行ってきました。生憎の雨空でしたが、子供さん、若人が生き生きしてました。皆さん、感染症と体調にご注意ください。草々

配信先: 亀井豊純、久納信之、五十嵐博之、高田光、佐賀靖弘、長南慎一郎、檜山竹生、立石浩二、木戸能史

報告: 小澤護(高専11期電気卒)

Mail : mamo33san@nifty.com

※ 次ページへ続く

前ページの続き



活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ④
「大槌町支援の会忘年会(2014年12月)」

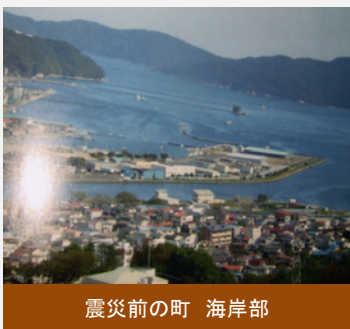
12月11日(木)杉並川南で中工16期有志によって活動している
 標題の会の忘年会が開かれました。歩みは遅いのですが、会員
 や協力していただけの方(当面、大槌町の海産物購入を通して支
 援)を増やして頑張っています。また2月21日は幹事の一人であ
 る福田さんの自宅で拡大幹事会を開催し、10名の参加を得て、
 冬の便の報告、3月の育英ファミリー会でのPR、会員の拡大に向
 けて努力する方向でまとまった。本会の活動に関心の有る方は
 下記メールを…

報告: 桂嶋博明(工高16期電気卒)

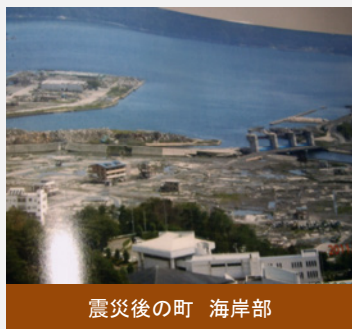
Mail: katsurasima@nifty.com



2015.2.21 新年会(福田家)



震災前の町 海岸部



震災後の町 海岸部

活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ⑤
「工高6期印刷十月会…喜寿を迎えて(2013年、2014年10月)」

九月会が十月会になりました。2013年は10月11日、練馬区役
 所近くのくかごの屋>で、2014年は10月18日、同所で再会恩師
 の平山先生、中村皓一先生が故人となり、級友も十数名が逝去
 しています。喜寿とはそういうことかもしれません。

2013年は11名、2014年は12名が出席した写真のメンバーは、健
 康の話題が中心になるものの、元気いっぱいでした。60年前の
 育英時代に話を咲かせつつ、今を乗り越えられればまだまだ、こ
 れからも、夢を持って歩いていこう、ため込んだ知識を活かして、
 日々を楽しみ、また来年会おう…

報告: 空閑晋(工高6期印刷卒)

「若い人たちがばかりでなく、先輩の動きもありませんか(空閑談)」



2013.10



2014.10

活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ⑥
「工高12期木材工芸卒クラス会…古希を超えて(2014年10月)」

去る10月25日、工高時代、都内から来る生徒も多かった、高田
 馬場駅近くの「土風炉」で恩師の古屋先生を迎えて、15名が参集
 し、楽しいひとときを過ごしました。

傘寿を超えた古屋先生は現在も英、西、韓の外国語を学び、今
 海外は無理でも国内各地を訪れているとのこと、みなさんはこれ
 から喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿に向けて末永く健康で長生き
 して、この会が継続されるようにとお話し下さり、皆、励まされる
 思いでした。

報告: 村井健二・吉野寿男(幹事)



第12期 昭和36年卒業 育英工業高等学校 木材工芸科 クラス会

2014年10月25日(土)
 土風炉 Tofuro 高田馬場店にて

▲左から新幹君、
 菊池君(法政学校で恩師の先生、芝罘にと忙しい日々)、
 田原君、望月君。
 ▲手前右から梅澤君、古屋先生、
 青野君、大澤君、
 手前右から上野君、小嶋君、
 吉野君、新井君、菊池君、
 田原君の座り。
 ▲吉野君(クアセンターの役員、
 趣味は野球と釣り)と小林君
 (旧日産エンジニアリング)。
 ▲左から吉野君、菊池君、新井君(趣味は映画鑑賞)、田原君。

※ 次ページに続く

前ページの続き



活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ⑦
「55年ぶりに里帰りした木彫レリーフ」

平成26年10月25日、工高木材工芸科12期(昭和36年3月卒)の古希の会に呼ばれました。毎年声をかけられますが、今年は特別で、15名のみなさんと一味違う楽しい時を共にしました。(報告⑥)

宴もたけなわにさしかかった時、出席者の一人、倉持君が、突然「どうしても聞いてもらいたい話がある・・・。」と口を切りました。みんなが傾聴したこの話というのは、「先日送り主サレジオ高専という小包が届きましたが、心当たりもないので不審に思いながら開けてみると、中から径25cmほどの木彫レリーフが出てきました。一見してすぐ、高2の時に自分が彫った作品であることが分かりました。よくぞ、今日まで、と55年前の作品を手にしていとおしさと感激に浸る反面、長い年月一体これがどこに置かれ、誰が見つ付けてくれ、名前も消えているのにどういう手がかりで私の住所まで送り届けてくれたのかと思うと、そのいきさつを知りたい気持ちでいっぱい、その辿った道のりを聞きながら何とかお話を伝えたい。」とそこまで続けたところで、誰いうとなし「そのいきさつはもうそれ以上詮索しないで、今はこの気持ちを温かくそっと心の中に受け止めておいた方がいい。」と言い出しました。事実、現高専デザイン学科あたりに聞いても分からずじまいでした。

「育英が杉並の地に産声をあげて今年で80歳、工高、高専を経て遠く多摩の地のサレジオ高専となった今も、やはりその底にサレジオの心が変わらず流れている見えざる絆だ。」というところ全員が納得しました。多くの在校生、卒業生、それに遠くに旅立たれた諸先生にも、是非このことをお届けしたい気持ちでペンを執りました。雲間に広がる青空を見た思いでした。

育英高専(現サレジオ高専)元教授 古屋 専哉



2014.11.09

55年ぶりに里帰りしたレリーフ

活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ⑧
「育英高専カトリック研究会OBが集合
<育英高専6-12期卒>(2014年10月)」

10月18日、育英グラフィックの会が開催されときに再会した林同窓会長と相談し、久しぶりにカトリック研究会のOBに集合をかけ、10名集まる事ができましたのでご報告をいたします。

あつという間に新宿の居酒屋の一室が育英のカト研究室(木工館のアーク灯色の部屋)でグダグダしている状況が再現され、不思議な空間が生まれました。

近況報告に後輩の結婚報告もありました。彼は55歳初婚でとても嬉しい報告でした。それではと、結婚式を出汁にカト研同窓会を企画しようと酔っぱらいの無謀な計画が進行しております。

(中略)

15歳から20歳までの学生に真剣にキリストの教えを指導し、ボランティア活動、遊びもスポーツも共に汗を流し、多くの体験をさせて頂いた事などコンプリ神父を始め、皆様の教えをいただいたおかげで、贅沢な5年間を過ごすことが出来ました。そして生涯の友を得ることができ感謝の気持ちでいっぱいです。来年5月開かれる同窓会での出会いを楽しみに。

報告:林 克重(高専8期グラフィック卒:福島市在住)



活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ⑨
「高専1期電気工学科卒同期会報告(2015年3月)」

平さる3月1日、新宿歌舞伎町のパーティスペース「シンジクノチエ」で5回目の同期会を開催しました。高専1期電気では主に電子課程のメンバーが主として始まった「駒田会(故駒田先生を囲んだ会)毎年秋に実施」と今回の学科全員94名を対象とした同期会を2~3年に一度開催しています。冒頭昨年12月に亡くなられた石川先生のご冥福を願って黙祷をささげ、宴に入りましたが昔話や近況報告等にあつという間に3時間が経過、二次会は西口大ガード近くの山内農場という居酒屋に場所を移し、3年後の70才卒50周年での再会を誓って散会しました。

※ 次ページへ続く

前ページの続き

出席者(敬称略)「恩師：仁村・依田・木戸、電子：樋口・稲葉」
 山下・柳田、電力：阿久津・別所・江頭・檜山・堀野・飯田・石塚・河村・小宮・小菅・水谷・佐々木・下崎・須藤、報告：河村英和(では次回まで皆さんお元気で… 高専1期電気の方は消息をお伝えください buri.hidesan3@gmail.com)

集合写真の名前順

3列目：堀野直一・佐々木孝一・檜山・石塚・小宮・樋口・下崎・江頭・稲葉・須藤
 2列目：左端から河村・阿久津・柳田
 1列目：左端から山下・水谷・依田・仁村・木戸・飯田・別所・小菅



活発になる同期会、クラス会報告2014-5 ⑩ 「ワンダーフォーゲル部OBOG会 2015.3.28」

3月28日新宿美祿亭にて48期2名の諸君を迎え恒例のワンゲル部新人OB歓迎会を盛大に開催しました。今回の特筆すべきは、印刷工学科4期の田中さんが卒業以来44年振りで初参加いただき久振りの再会に感激しました。連絡に際し機会を与えていただいた同窓会事務局ならびに印刷工学科4期小林様に深謝いたします。

上は、67歳の1期から下は今年卒業の20歳の48期が一同に参集し、それぞれ一つ釜の飯を食った仲間です、実際いまでも諸先輩が使った部装備の大鍋があるそうです。恒例の自己紹介近況を報告し、新社会人の48期へは、諸先輩が人生の先輩として貴重な助言、職場・転職からリタイア後、孫の話など笑いあり多彩な話題で今年も大いに盛り上がった新人OB歓迎会でした。

また、話題作りに当時ホームグラウンドでボッカしていた丹沢水無川の作治小屋から政次郎尾根を経て新大日小屋の登山往復3時間掛けたビデオ撮影を放映し皆さん懐かしく感じていました。来年2016年は、創部50周年となり町田キャンパスへの記念植樹など企画中です。

参加者は、角田(元顧問)、平井(1期)、河村(1期)、木原(3期)、加藤(3期)、田中(4期)、小澤(4期)、藤谷(7期)、八重沢(8期)、草野(13期)、小森(14期)、木村(27期)、野澤(31期)、檜原(40期)、進藤(45期)、西岡(48期)、春山(48期)の17名でした。なお、ワンゲルOBOG会は総勢167名で現元顧問8名、OBOG159名(内故人4名、宛先不明23名)の現況です。ワンゲルOBOGで連絡が届いていない方はご連絡ください。

※ 右上へ続く

前ページの続き

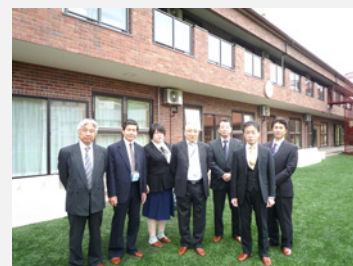


速報 町田サレジオ幼稚園落成式に出席 (同窓会関係者招待2015.4.29)

去る4月29日(祝)昭和の日に本年4月1日にサレジオ高専の隣接地に開園した学校法人育英学院の町田サレジオ幼稚園の落成祝別式が挙行政され、同窓会関係者も招待、参列した。

ここまでの道のりは容易ではなかったが、一重にこの小山地区の皆さんや町田市のご支援があつての開園であり、それは4月10日に挙行政された入園式、開園式に町田市長を始め、地元選出の国会議員、都会議員、市会議員の皆さん、さらに地域の名士のみなさんが多数出席され、祝われた。今年は年少(三歳児)組25名が入園、来年以降地元の期待はさらに大きなものになっている。

落成式はサレジオ関係者、高専関係者、父母会、同窓会(但馬顧問、桂嶋理事、林会長他執行役員)などに加えて地域の方も参加して、園舎・園庭の祝別をカトリック典礼様式で行った。当日午前のお披露目には地域の幼児をつれた保護者の皆さんが多数来園されていた。



— 予告 —

ドン・ボスコの足跡を辿るツアー
 (2014.9実施)アルバム次号(135号)で掲載
 乞うご期待!!

恩 師 訃 報 (2014)

— 心よりご冥福をお祈りいたします —



2014.10.31逝去(65) 故 チブリアニ・アルド神父

さる2014年10月31日、療養中であったサレジオ会日本管区長、育英学院理事長チブリアニ・アルド(Aldo Cipriani)神父(享年65歳)が帰天されました。

師は1949年イタリアのアレッツォで生まれ、1966年に同国キエリでサレジオ会に正式入会(初誓願)、1970年来日、1977年東京カテドラルで司祭に叙階、以後、川崎サレジオ中高(現在横浜のサレジオ学院)、管区本部、サレジオ会経営のドン・ボスコ社長として長く活躍、2009年に日本管区長に就任、同時に育英学院、大阪星光学院理事長を兼務され、本高専の発展にも寄与されました。

数年前から体調を崩したが亡くなる前月の理事会にも出席され、最後までその勤めをはたされた。11月5日に葬儀ミサが目黒サレジオ教会で行われたが通夜、葬儀とも多数の参列者により見送られました。

司式された溝部脩名誉司教(サレジオ会員)から「神父の休んでいるところを見たことがない、もう少しイタリア人らしくしたら…」と忠告したことがある」という言葉に参列者の涙を誘いました。

その後12月中に新しい日本管区長に山野内倫昭神父が、育英学院理事長には並木豊勝神父が就任しました。両神父とも育英高専時代に勤務経験があり、本高専には深い理解があり、これからも本高専に尽力いただけるものとおもいます。



2014.11.30逝去(79) 故 石川日出夫先生

さる2014年11月30日、療養中であった元育英高専電気工学科教授の石川日出夫先生(享年79歳)が逝去されました。療養されていたことは知らされてなく、同期会、育英ファミリー会などで元気なお姿を拝見していた者として突然の訃報に驚きました。葬儀は12月10日家族葬で執り行われました。

同窓会としては林同窓会長の名でご香料をお送りし、喪主である奥様より皆様によりしくお伝えくださいとの御礼を頂戴いたしました。

先生はその親しみ易い人柄から多くの学生に慕われ、特に材料研究室に所属した卒業生はその思い出に生前を偲び、ご冥福を祈るとの声が届きました。お知らせいただいたハガキに掲載された先生が晩年親しまれた油絵を以下に掲載させていただきます。



育英ファミリー会で
仁村先生(左)と語る故石川先生



故石川先生の作品「第66回中展」出展
「北川村モネの池」



高専News編集部では
皆様からの情報やご要望をお待ちしております。

ご自身の近況・ご学友の近況などの情報のご提供や、より詳しく知りたい本校の活動内容などがございましたら
お気軽に下記担当者までお問い合わせください。

学 校 広 報 室
星野 正登

【 hoshino@salesio-sp.ac.jp 】 or 【 070 - 2196 - 5135 】

なお、本校に来校をご予定の方は、公共交通機関をご利用の上、
お気をつけてお越しください。

